



[2019.3.16発行 編集担当:芝田 真美]

春の訪れを感じる季節となりました。NPO 法人 Arts Planet Plan from IGA の活動も満 17 年を迎えることができました。今号では今年度の総括や庵プロジェクト・粘土カフェといった自主活動の報告、実技講習会についてお伝えさせていただきます。

2018 年度の活動を振り返って

今年度は、極力、運営に掛ける事務局員の方々の労力軽減を図って活動を行った。4 回の実技講習会は講師を招くことは 1 回に留め（内部講師：竹の楽器づくり）、後は参加者自らが活動するもの（柿渋作り）や「いがぶら」と重ねた企画（作陶）、現地見学（墨づくり見学とにぎり墨体験）など、担当者にとっては省エネで中身は実のあるものを企画した。研修旅行も年末から 9 月末に日程を変更し、BIWAKO ビエンナーレの見学を中心に開催した。台風に見舞われはしたが、フットワークの良さと臨機応変の対応で見学予定の殆どを回れた。

風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀 2018 は、寒かった前年の 11 月から 10 月末に会期を変更し、地元の秋祭りとも連動した日程となり、来場者や参加者が増加した。様々な参加形態や新たな交流も生まれた。平日には誘客を兼ねて実行委員会主催で「いがぶら」を 4 企画開催した。2019 年度も、ほぼ同じ日程になりそうである。自主活動グループやその他は、それぞれの活動報告を参照されたい。事務局員が枯渇している中、何とか遣り繰りして、参加して楽しく達成感のある活動ができた実感している。

(代表理事：森田 耕太郎)

第 9 回穴窯焼成の報告

2 年振りとなる「第 9 回 穴窯焼成」を実施しました。毎月定例活動日に集まり、昨年 4 月～今年 9 月まで、合宿を含めて 27 日の<薪割り>を行ない、その参加者はのべ 123 人でした。薪割りの他に、「穴窯仲間のカタチ展」開催、チェンソー・薪割り機の故障とその対応（学習会）などもしながらの活動でした。出来た赤松（間伐材）の薪は、目標 550 束に対して 491 束でした。今回初めて、業者さんの薪 50 束を購入しました。

12 月 13 日には、窯の湿気を取るための<あぶり>行ない、14 日～16 日、<窯詰め>を行ないました。窯に作品を入れた人は 32 名（会員 9 名、一般 23 名）、その総作品数は、前回より少ないものの約 300 点でした。（写真 1） 並行して、アトリエの薪ストーブ用の薪を、アトリエ周辺から伐採して用意する作業も行ないました。4 日間の参加者は、のべ 21 人でした。

<窯焚き>は、12 月 20 日朝 9 時に火入れを行ない、3 日目夕方には、温度は 1250℃を記録しましたが、これ以上の温度をキープすることは難しく、1220℃～1250℃程度の窯焚きが続きました。そして、最終日 24 日未明のことです。煙突側の屋根から炎が立ち登りました。何度かバケツで水を掛け、火は消し止めましたが、脚立に登って火を消してくださった方が転落、当初は打撲との診断でしたが、後日、胸に骨折が見つかりました。前々回の火傷の教訓から、「安全第一」の合い言葉を肝に銘じて活動してきたつもりでしたが、申し訳ない事態となりました。（火災の原因は、煙突にトタンを巻くの忘れていたためでした。）その後、窯を立て直し、夕方 16 時過ぎに窯を閉じました。4 名しかいない時間帯もありましたが、夜間のみ応援や土日には作品を入れていない方々のお手伝いもあり、皆さんのおかげで、約 103 時間の焼成を終えることができました。ありがとうございました。25 日は、窯周り・薪棚・アトリエの片づけをしました。6 日間の参加者は、のべ 56 名でした。

年が明けて 1 月 20 日、<窯出し>を行ないました。（写真 2） ひな壇のように作品を詰めたため、奥の方にも灰がよく掛かっていましたが、前回よりは温度が上がっていなかったように感じました。この日の参加者は、15 名でした。この度の穴窯焼成は、特に反省・改善すべきことが多くありました。

(粘土カフェ担当：田上 早百合)



写真 1 窯詰めの様子



写真 2 窯出しの様子



焼成の様子

庵プロジェクト活動報告



階段



デッキ状床

8月の夏合宿以降、後方階段の設置（会員の吉田さんの制作・写真）が完了し、継続して古材の中から梁材を加工したり、柱材を調達したり（会員の後藤さんより頂いたり）して、棟上げの準備を進めて来ました。写真のようにデッキ状の床貼りは済んでいるので、上にテントを張って楽しむことも可能ですが、暖くなって来たところで、柱や梁を組んで棟上げをしたいと考えています（ひとりでは無理ですが…）。次回4月は21日（日）に活動を予定しているため、ご都合のつく方の参加を待っています。どなたでもいつでもご連絡ください。今年中には完成したいものです。

（庵プロジェクト担当：石津 勝）

第4回実技講習会「墨づくりの見学とにぎり墨体験」の報告

2月15日（金）、「第4回実技講習会/墨づくりの見学とにぎり墨体験」を実施しました。奈良では、寒い時季にのみ、今でも伝統的な墨作りが、手作業で行なわれており、440年余りに亘り昔ながらの墨づくりをかたくなに守り続ける老舗「古梅園」を訪ねました。

道路に面した店舗から、奥に向かって運搬用の線路が走っていました。その敷地内に一歩足を踏み入ると、中庭を囲んで趣のある複数の建物、古い梅の木もありました。墨の製法順に、丁寧な説明を聞きながら、園内を案内していただきました。最初に入った窓のない「採煙蔵」では、煤（すす）の採取のための繊細な作業が行われており、真っ暗な中で200個の土器の炎が燃えている様子は神秘的なものでした。次に、膠（にかわ）を湯煎している所、そして、いよいよ煤と膠が光沢の出るまで練り上げられ、梨の木でできているという木型に入れる作業を真近で見学です。ここで、希望者7名が、「にぎり墨」をしました。まだ温かい墨玉を渡してもらい、ギュッと握ると指跡の付いたオンリーワンの墨となり、乾燥後、届けてもらえるという貴重な体験です。続いて、気の遠くなるような手間と時間をかけて行われている「灰乾燥」と「自然乾燥」の現場を見せていただきました。

土・日・祝日は墨職人さんの定休日のため、奈良が最も冷え込む2月の平日の開催となりましたが、参加者は計13名（会員5名、一般8名）、うち県外からの参加者が8名ありました。お店を出ると、皆さんが、良かったあ～！と言っておられました。伝統を受け継いでくださる方々の姿勢に感嘆の連続！

奈良に住んでいても知らなかった、すごい！予想以上の感動！との感想をいただきました。

（第4回実技講習会担当：田上 早百合）



古梅園 外観



にぎり墨



参加者の皆様と

事務局からのお願い

◎ 本法人は皆様方からご納入了いただきました会費で運営されております。常々、ご協力ありがとうございます。

未納の方は、早めの納入にご協力をお願いいたします。**大人5口以上（学生3口以上）の方も大歓迎です。**

[郵便局] ゆうちょ口座：00890-1-106346 NPO アーツ プラネット プラン フローム イガ

[他行～] ゆうちょ銀行 金融機関コード 9900 店番 089 店名 ○八九店（ゼロハチキュウ店）

当座 0106346 アーツプラネットプランフロームイガ